8 福島市の山林におけるタネガタマダニの紅斑熱群リケッチア保有状況調査（予報）.

○ 藤田博己¹⁾, 安藤秀二²⁾, 川端寛樹²⁾ (1)大原研究所, 2)感染症研究所)

Preliminary report on *Ixodes nipponensis* tick as an unknown spotted fever group rickettsia in Fukushima City. Fujita, H., Ando, S. and Kawabata, H.

タネガタマダニは全国各地に広く分布し、人体寄生例も知られる。これまでに本種における紅斑熱群リケッチアについては、Takada ら（1988）の徳島県産個体の hemolymph test などによる初検出以来、国内各地からの陽性例が集積されつつある。われわれも、2007 年 3 月から 7 月に福島市郊外山林に生息するタネガタマダニのリケッチア検査を試みたので報告する。

植生上からハタズリ法によって採集したマダニ類は 2 属 9 種 259 個体で、このうちタネガタマダニはわずかに 7 若虫と 1♂であった。このほかに、本種幼若期の特異的宿主であるカナヘビを捕獲し、5 頭から 7 若虫を得た。これら合計 15 個体のタネガタマダニを個別に培養細胞 L929 へ接種して分離による検出を試みたところ、カナヘビ 3 頭から採集した 4 若虫がリケッチア陽性であった。分離株はいずれも各種の紅斑熱群リケッチア抗体に免疫染色で陽性反応を示したが、抗 *Rickettsia tamurae* マウス血清に最も鮮明な染色像を呈した。ちなみに *R. tamurae* は東北地方には分布しないタカサゴキラマダニの特異的保有種である。分離株の種への同定は、Ishikura ら（2003）が富山県産タネガタマダニから検出した Genotype IX (In56) や Hiraoka ら（2005）が国内各地の同種マダニから検出し Group 3 とした各紅斑熱群リケッチアとの異同も含めて検索中である。